



▲左から、高橋由一「鮭図」、五姓田義松「人形の着物」、黒田清輝「黒田清兼像」
[いずれも、笠間日動美術館蔵(山岡コレクション)]

ところがこの時期、^{おうか}欧化主義の反動から^{こく}国粹主義が台頭したことによって状況が一変しました。洋画^{はいせき}排斥の風潮が高まり、西洋系の技術文化の拠点だった工部省にも打撃を与えたのです。ついに明治16(1883)年、工部美術学校は廃校となりました。

明治20(1887)年、同じく官立である東京美術学校が設立されますが、ここでも洋画は排除され、しばらくは伝統的^{にほん}日本美術のみが教えられています。

明治美術会と白馬会

こうした不遇の時代、洋画家たちは団結をはかりました。明治22(1889)年、小山正太郎、浅井忠らに、留学を終えて帰国した画家たちを加えて、日本最初の洋画団体・明治美術会が結成されることとなります。明治美術会は、展覧会や講演会の開催、後進の指導など洋画の振興と普及に力を注ぎ日本洋画界の中心としての役割を果たしていましたが、明治26(1893)年にフランスから帰国した黒田清輝と久米桂一郎がその状況に^{くろだ}変革をもたらしました。

当初、黒田らは同会に参加していますが、芸術家の自由を^{ひょうぼう}標榜して退会、ついに明治29(1896)年、白馬会を結成しました。ラファエル・コランに学んだ明るい外光表現による白馬会の画風は、新派^{しんぱ}または紫派と呼ばれ、ここには藤島武二、青木繁といった明治後期を代表する画家たちも参加しています。白馬

会は旧派または^{やには}脂派と呼ばれた明治美術会と対立しますが、東京美術学校に新設された西洋画科の指導者に黒田が選ばれるなど、白馬会の優勢はあきらかでした。

明治34(1901)年、明治美術会は解散しますが、翌年に改称して太平洋画会が創立されます。明治40(1907)年から開始された国主催の文部省美術展覧会(文展)にも参加し、白馬会とならんで明治後期の洋画壇の中心勢力となっていきました。

山岡コレクションについて

本展覧会で紹介する山岡コレクションは、笠間日動美術館所蔵の名品群です。山岡発動機工作所(後のヤンマーディーゼル株式会社)の創業者・山岡孫吉氏^{やまおかまごきち しゅうしゅう}が蒐集した日本初期洋画の優れたコレクションとして高い評価を得ているもので、公共に還元するため笠間日動美術館に寄贈されました。文化と美術に高い関心を持っていた孫吉氏の情熱無くしては成立しなかったことといえるでしょう。

この展覧会は3月12日(日)まで開催中。日本近代洋画への道を切り開いていった、先駆的画家たちの作品をご覧いただける絶好の機会です。高橋由一の「鮭図」も陳列中です。この機会にご高覧くださいませよう、ご来館お待ちしております。

古河歴史博物館学芸員 倉井直子

※次回は5月号(5月1日発行)に掲載します。